

愛知の土地改良

第182号

平成27年1月1日



□ 新年を迎えて 会長 神谷金衛	2
□ 新春を迎えて 愛知県知事 大村秀章	3
□ ご挨拶 愛知県農林水産部農林基盤局長 山本信介	4
□ 叙 納	5
□ 第14回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭執行	5
□ 第14回愛知県土地改良事業推進大会を盛大に挙行	6
□ 平成27年度農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施	7
□ 農業用排水機器移管期成同盟会要望活動	9
□ 農業農村整備の集い	10
□ 第37回全国土地改良大会 山梨大会	11
□ 農地・水・環境のつどい 開催	12
□ 第6回産学官連携・愛知県農業用水小水力発電推進検討委員会	13
□ 水土総合強化推進事業情報	13
□ 研修会	15
□ 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014	17
□ 第13回あいちの農業・農村フォトコンテスト	18
□ お知らせ	19
□ 迎 春	20



新年を迎えて



愛知県土地改良事業団体連合会

会長 神谷 金衛

年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、新年を迎え益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は、本会の運営及び農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り深く感謝いたします。

昨年はリニア中央新幹線の着工認可、日本人3名のノーベル物理学賞の同時受賞、小惑星探査機「はやぶさ2」が、3億キロ彼方の小惑星に向かって打ち上げられるなど夢溢れるニュースが飛び込んでくる中、エボラ出血熱の地球規模での拡散、年々巨大化し猛威をふるう台風、御嶽山の突然の噴火などの憂いも多き年がありました。

さて、本県は、古くから木曽川・矢作川・豊川の三大水系を中心として、先人の努力により数多くの農業用水路が開削され、大規模水利事業を展開してきたことにより、農業産出額は常に上位を維持する全国でも有数の農業県となっております。これらの施設を機能的かつ高度に活用し、維持していくため、これまで補完的な改築に留まってきた施設も、適切な時期に次代を見据えた更新や機能保全対策を実施していくことが緊要であります。特に、国営総合農地防災事業新濃尾地区、矢作川総合第二期地区、水資源機構営豊川用水二期事業等をはじめとした水利施設の更新整備について、積極的に事業推進の働きかけを行って参りたいと考えております。

一方で、本県は我が国最大規模のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を抱えており、南海トラフで発生する大規模地震により海岸堤防は沈下・崩壊し、津波到達前の浸水や津波による甚大な被害が想定されています。

また、近年ゲリラ豪雨等も多発しており、防災・減災に資する農業用施設の耐震化・更新整備も喫緊の課題であります。

さらには、農村における多面的機能の維持や、農業用水を利用した小水力発電等の再生可能エネルギーの導入など、農村資源の保全とその恵みを活用し、維持管理費の軽減や地産地消等により地域を活性化させていくことも必要であります。

本会といたしましても、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」「国土強靭化」の実現に向け、「日本型直接支払制度」等の施策を効果的に推進し、農地の大区画化や農業水利施設の整備・長寿命化はもちろん、耐震対策をはじめとした防災・減災対策を着実に推進させていくことが、我々の責務であると考えております。

こうした課題や地域のニーズに応えるべく、役職員が一体となって、業務運営に一層の努力をして参りたいと考えておりますので、会員各位の更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、農業農村整備事業の発展と皆様の益々のご繁栄を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

新春を迎えて



愛知県知事

大村 秀章

あけましておめでとうございます。
新たな年が、県民の皆様方にとりまして、素晴らしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、リニア新時代を見据えた大都市圏づくりに向け、県政各般にわたり、様々な取組に力を注ぐとともに、「ESDユネスコ世界会議」、「技能五輪・アビリンピックあいち大会2014」の開催などを通じ、愛知を大いに発信できました。

今年も、「あいちビジョン2020」の着実な推進を図りながら、更なる飛躍を目指してまいります。

まず、世界に発信する「中京大都市圏」づくりです。2027年度のリニア開業による5千万人の大交流圏の実現をにらみ、鉄道・道路・空港・港湾などの機能強化を進めてまいります。

また、燃料電池自動車を始めとする自動車産業の高度化、航空宇宙産業やロボット等の次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援などとともに、農林水産業のパワーアップを図り、「産業首都あいち」の実現を目指してまいります。

そして、愛知を支える「人づくり」に全力で取り組み、すべての人が輝き、活躍する愛知づくりを進めてまいります。

さらに、スポーツ大会の育成・招致に取り組むとともに、今年を「あいち観光元年」と位置づけ、愛知の魅力を高め、積極的に発信してまいります。

こうした取組のほか、グローバル展開、安全・安心な地域づくり、「環境首都あいち」に向けた取組、地方分権・行財政改革、東三河県庁を核とした

地域振興などにも力を注ぎ、愛知の総合力を高めてまいります。

特に、農林水産業においては、消費者等のニーズを的確にとらえる「マーケット・イン」の視点に立って、6次産業化の一層の推進や「花の王国あいち」のPR、地産地消の推進や県産木材の利用拡大など、県産農林水産物の需要拡大と経営革新に努めてまいります。

農業農村整備事業につきましては、農業の競争力強化を図るため、担い手への農地の集積や省力化に向けたほ場の大区画化や用排水路の整備等を一層推進してまいりますとともに、地震や豪雨等の自然災害から県民の生命・財産を守るため、農業用排水機場の計画的な更新やため池の耐震対策などを実施し強靭な県土づくりを進めてまいります。

また、農業用水を利用した小水力発電につきましては、県内各所で展開しており、県が管理しています羽布ダムにおきましても、昨年、本格的な工事に着手するなど、これからも積極的に取り組んでまいります。

さて、今年は、2005年の愛知万博から10周年です。秋には、愛・地球博記念公園をメイン会場に、「全国都市緑化あいちフェア」を開催します。花と緑にあふれた愛知の魅力を感じていただけるようしっかり取り組み、万博の成果を継承・発信してまいりたいと思います。

これらの取組を通じ、「日本一元気な愛知」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



愛知県農林水産部農林基盤局長

山本 信介

あけましておめでとうございます。

愛知県土地改良事業団体連合会におかれましては、神谷会長様を中心に、県政の発展に多大なご支援をいただくとともに、本県の農業農村整備事業の推進に格別なご尽力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

まず、さる9月27日に起こりました御嶽山の噴火という戦後最悪の火山災害により犠牲になられました方々に対しまして、哀悼の意を表しますとともに、被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。加えて、愛知用水の水源である牧尾ダムがある王滝村を始め、被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、政府は、昨年を「農政改革元年」とし、「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づく施策を展開しております。そのうち、農業農村整備事業につきましては、農業競争力強化を図るために、農地の大区画化・汎用化や農業水利施設の整備を積極的に推進することが必要とされています。県といたしましては「あいちビジョン2020」において「競争力ある農業に向けて」として、農業生産基盤の強化に向けた取組の推進を位置づけていることから、これまで以上に基盤整備の推進が求められており、その実現には、貴連合会の技術力が一層重要となります。

また、県では、「地震から県民の生命・財産を守る強靭な県土づくり」を目標として掲げた「第3次あいち地震対策アクションプラン」を策定しました。「命を守る」「防災力を高める」などを対策の柱とし、具体的には、ため池や農業用排水機場、海岸等の耐震化対策を推進するとともに、減災効果を高めるために、ため池のハザードマップ作りや農業水利施設の浸水・津波避難施設としての利用促進など、地震防災対策の充実に努めてまいります。

次に、貴連合会と県が車の両輪となって推進している農業用水を利用した小水力発電については、県内25地区において具体的な取組が進められているところですが、そのうち、6地区につきましては既に運転を開始しております。また、県が管理している羽布ダムに設置する小水力発電施設につきましては、最大出力854キロワット、一般家庭約900世帯の年間の消費電力量に相当する発電量を見込んでおります。昨年8月には、大村知事並びに神谷会長出席のもと、小水力発電施設の起工式を開催し、平成28年度末の発電開始に向け、本格的な工事に着手したところあります。今後も県内各所に小水力発電が展開されることが期待されているところです。

さらに、昨年は、日本型直接支払制度が創設され、従来の「農地・水保全管理支払制度」が「多面的機能支払制度」となりました。制度内容が拡充されたことにより、本県におきましても、実施面積が増加しております。この「多面的機能支払制度」は平成27年度から、新たな法律に基づいた制度として実施される予定でありますので、貴連合会が従前から取り組んでこられたノウハウなどを十分に活かしていただくことが、更なる実施区域の拡大や円滑な事業の展開につながると考えております。

貴連合会におかれましては、今後とも本県の農業農村整備の推進に一層のご尽力をいただくとともに、これまで培われた知識や技術力を駆使して、多面的機能を持つ農地、農業用水などの保全管理へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と会員各位のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

旭日小綬章

政府は平成26年11月3日付で平成26年秋の叙勲の受章者を発表した。

本会会員からは本会理事、久野知英みよし土地改良区理事長が旭日小綬章の栄に浴されました。

このたびの栄えある受章を心からお慶び申し上げ、益々ご健闘でご活躍されますようお祈りいたします。



久野 知英 氏

本会理事
みよし土地改良区理事長

第14回 愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭執行

物故功労者342柱の御靈を慰靈

11月20日午後2時より、真宗大谷派名古屋別院において、第14回愛知県土地改良事業物故功労者慰靈祭を、122名のご遺族と600名余の土地改良事業関係者のご来駕のもと、盛大且つ厳かの内に執り行った。

慰靈祭は川上萬一郎理事の開式のことばに始まり、僧侶・導師入堂の後、参加者一同が合掌を行い、御靈を慰靈するための読経が流れる中、施主・神谷金衛会長の焼香に続いて、遺族代表・元孫宝排水土地改良区理事長故服部金蔵氏のご遺族の服部真澄様、ご来賓を代表して愛知県知事（代理森岡仙太副知事）、水間史人東海農政局長、三浦孝司愛知県議會議長、鈴木喜博愛知県議会農林水産委員長、山本英明水資源機構中部支社長始め、東海農政局、愛知県農林水産部の多数の幹部の方々、会員を代表して8支会長と続き、ご遺族・ご来賓・役員全員の焼香がなされた。

僧侶・導師退堂の後、神谷会長から施主追悼のことばを、愛知県知事（代読森岡副知事）、水間東

海農政局長が、祭壇に祭られた342柱の物故功労者の方々の生前のお元気な姿を偲びつつ、追悼の意を表わした。

次に、遺族を代表して服部様から感謝のことば、最後に小久保三夫理事の閉式のことばが述べられ、物故功労者慰靈祭は、終始厳かに執り行われた。

ここに私たち土地改良事業関係者は、故人のご遺志を継ぎ、一致団結して土地改良事業の推進に全力を捧げる決意をするところです。



神谷会長追悼のことば

第14回 愛知県土地改良事業推進大会を盛大に挙行

11月20日午後3時20分より、真宗大谷派名古屋別院において、第14回愛知県土地改良事業推進大会を挙行した。

来賓として、大村秀章愛知県知事、水間史人東海農政局長、三浦孝司愛知県議会議長、伊藤勝人愛知県議会副議長、鈴木喜博愛知県議会農林水産委員長、山本英明水資源機構中部支社長始め、東海農政局、愛知県農林基盤局から多数の幹部の方々を迎へ、本会役員及び県下各地域から参集した土地改良事業関係者約700名で、会場は立錐の余地もない程熱気に満ち溢れていた。

大会は、川上万一郎理事の開会のことばに始まり、神谷金衛会長の主催者あいさつがなされ、水

間東海農政局長、三浦愛知県議会議長よりご祝辞をいただいた後、来賓紹介を行った。

この後、大会の議長に神谷会長が選出され、各支会の代表から、7項目に及ぶ事項の提案がなされ、それらを纏めた「土地改良事業推進に関する要望決議文案」を青木章雄専務理事が朗読、決議文は満場一致で採択された。

この後、土地改良事業功労者80名の知事表彰を行い、受賞者代表の横江好明神守土地改良区理事長に知事感謝状と副賞が授与され、今後とも土地改良事業の推進にご尽力されることをお願いし、表彰を終えた。最後に、大村愛知県知事よりご祝辞をいただき、推進大会は幕を閉じた。



大村知事より感謝状を授与される横江理事長



神谷会長主催者あいさつ

記

農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しており、環太平洋連携協定（TPP）の交渉如何によつては、日本の食と農業、農村に甚大な影響を与えることが懸念されるところである。こうした中、土地改良事業により生産性の高い優良農地と安定した農業用水を確保することは、我が国の農業の基礎を支え、競争力を高め、強い農業を実現するうえで、ますます重要な役割を果すものである。また、東日本大震災や各地で頻発する集中豪雨の猛威を目の当たりにし、本県においては、南海トラフ巨大地震への対策や、平成十二年の東海豪雨を教訓とした排水対策など、地域の防災・減災対策を担い強靭な県土づくりに資する土地改良事業に対し、県民の要望は一層高まっている。さらに本県の土地改良事業には、美しく快適な農村環境の形成や、農村地域における生物多様性の保全、農村の水資源を活用した小水力発電の普及など、環境先進県としての愛知を形作ることが求められている。我々土地改良関係者は、貴重な資源である「水」と「土」を守り育み、食の安全・安心を確保するため、土地改良事業が地域の合意に基づき、地域に密着した、真に必要な事業であることを強く訴えるとともに、今後とも土地改良事業が着実に推進できるよう強く要望する。

土地改良事業推進に関する要望決議（案）

一、土地改良事業は農業の成長産業化に資するとともに、地域住民の命と暮らしを守り地域全体の発展を支えていくことから、県、市町村予算を積極的に確保し、国営事業、水資源機構、農業関係者との協調事業、県営・団体営事業を一括して推進することを貴重な地域資源である農地、農業用水を保全し、土地改良施設の長寿命化を図る多面的機能払事業について、現場の農業用水の意向を十分反映して推進することを要望する。

二、農業用水の水路密度度日本一のボテンシャルを活用した小水力発電などを普及して、農村地域の資源を活用した再生可能エネルギーの利用に密着した単独県費補助事業を推進することを要望する。

三、米の生産調整の見直し及び飼料用米等の本作化による水田のフル活用等を踏まえ、農業用水の水利権を充実・強化することを要望する。

四、土地改良団体の育成強化と事業推進体制を一層整備することを要望する。

平成二十六年十一月二十日

第十四回愛知県土地改良事業推進大会

平成27年度 農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施

11月21日、平成27年度農業農村整備事業に関する18項目の重点要請を大村秀章愛知県知事始め県執行部に対し、神谷金衛会長、青木章雄専務理事、市野清一理事、白木実夫代表監事により実施した。

また、併せて中野治美自由民主党愛知県議員



大村知事に要請書を手交

団土地改良議員連盟会長始め、役員を務める県議会議員並びに、下舞寿郎東海農政局整備部長、荒川 覚農村計画部長を始めとする東海農政局幹部に対し要請を行った。

要請書並びに重点要請項目の内容は次のとおりです。



愛知県知事始め県執行部への要請

要請書

愛知県の農業農村整備事業の推進につきましては、日頃から格別のご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、平成26年度の当初予算におきましては、農業農村整備事業を重点事項とし、農業競争力強化のための農地整備や、国土強靭化のための耐震化対策・洪水被害防止対策について、対前年以上の額を確保していただきましたことに、重ねてお礼を申し上げます。

しかしながら、地域ニーズに応じた事業を展開するためには、農業農村整備事業の当初予算の確保が不可欠であります。

本県は、古くから木曽川・矢作川・豊川の三大水系を中心として、先人の努力により数多くの農業用水路が開削され、戦後は愛知用水を始め、各水系で大規模水利事業を展開してきたことにより、農業産出額は常に上位を維持する、全国でも有数の農業県となっております。

これら先人が築き守ってこられた施設を、更に機能的かつ高度に活用し、維持・更新をしていくことが私たちの責務でありますので、国営事業を着実に推進していただくと共に、これまで補完的な改築に留まってきた大規模水利施設や、水資源開発施設等につきましても、適切な時期に次代を見据えた更新や機能保全対策を実施していく必要があります。

一方で、本県は我が国最大規模のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を抱えております。南海トラフで発生する大規模地震により、海岸堤防は沈下・崩壊し、津波到達前の浸水や津波による堤防流出による甚大な被害が想定されています。また、近年ゲリラ豪雨等も多発しております。そのため、防災・減災に資する農業用施設の耐震化・更新整備が喫緊の課題であります。

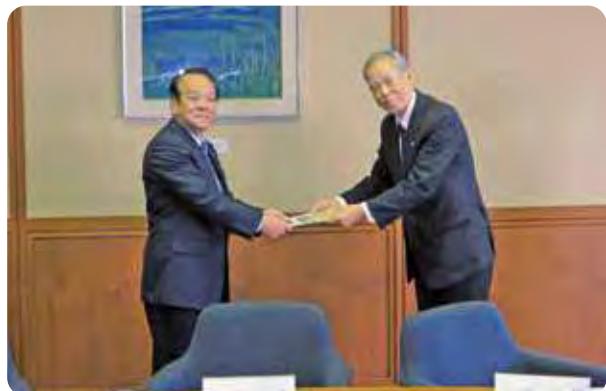
また、農村における多面的機能の維持や、農業用水を利用した小水力発電等の再生可能エネルギーの導入など、農村資源の保全とその恵みを活用していく必要があります。

8ページへ続く

今回、こうした課題や地域のニーズに応えるべく、3つのテーマで合わせて18項目の重点要請を行いたいと思います。愛知県土地改良事業団体連合会は、今後も国・愛知県と連携して効率的・効果的な農業農村整備事業を展開していく所存でありますので、格別のご高配をお願いいたします。



土地改良議員連盟役員に要請を行う神谷会長



要請を受ける中野自民党土地改良議連会長

重点要請 18項目

I 地域ニーズに応じた攻めの農業農村整備事業の展開について

- 1 農業農村整備事業の当初予算の充実強化について
- 2 海岸整備事業の促進について(農村地域防災減災事業の拡充)
- 3 農地防災事業に係る土地改良法手続きの簡素化について
- 4 農地の集積・集約化に向けた農業基盤整備事業の促進について



東海農政局幹部への要請

II 暮らしを支える大規模水利施設の計画的な更新整備について

- 1 国営総合農地防災事業 矢作川総合第二期地区の推進について
- 2 国営総合農地防災事業 新濃尾地区の推進について
- 3 国営施設機能保全事業 尾張西部地区の着工について
- 4 地域整備方向検討調査 矢作川沿岸地域の推進について
- 5 水資源機構 岩田用水二期事業の推進について
- 6 水資源開発施設等保全管理事業の推進について

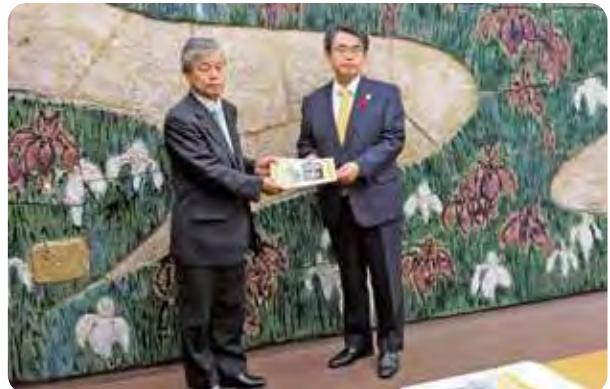
III 國土強靭化に資する農業農村防災対策と持続的な農業生産基盤の整備について

- 1 農村地域防災減災事業の予算の拡大について
- 2 農村地域防災減災事業等による耐震対策の促進について
- 3 農山漁村地域整備交付金(海岸整備事業)の促進について
- 4 特定農業用管水路等特別対策事業の促進について
- 5 多面的機能支払交付金に係る市町村事務の軽減について
- 6 農業用水を利用した小水力発電の導入促進について
- 7 農業水利施設の適切な維持管理に対する支援について
- 8 単独土地改良事業等の推進について

※東海農政局にはⅢの7までの17項目を要請

農業用排水機県営移管期成同盟会要望活動

11月21日、農業用排水機県営移管期成同盟会においても白木実夫会長職務代理者副会長(鍋田土地改良区理事長)、市野清一理事(西福田土地改良区理事長)が、大村秀章愛知県知事始め県執行部並びに自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟役員に対し、排水機維持管理事業費補助金の予算確保に関する要望活動を行った。



大村知事に要請書を手交

要 望 書

排水機維持管理事業に関する要望

排水機維持管理事業の推進につきましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

農業用排水機は、農地のみならず住宅地や公共施設用地など地域全体の排水を担っており、その公共性の高さから農業用排水機県営移管期成同盟会は農業用排水機の県管理を要望してまいりました。

これに対し愛知県は「直ちの全面的県営管理は不可能」とし、代替措置として排水機維持管理事業を創設されましたが、このことは農業用排水機の公益性を踏まえ、私どもが公的な役割を果たしていくことの結果として、その費用を補助して頂いているところであります。

しかしながら、近年においては県の厳しい財政状況を理由に補助金が縮減され、今後も更に続していくと、排水機を管理している我々の組織の運営に大きな影響を与え、ひいては地域の防災対策の弱体化を招き、地域住民の生命と財産を守ることも極めて困難になると懸念しております。

昨今の局地的豪雨の増加や燃料費の高騰などから、排水機の維持管理費用は増加傾向にあり、また、東日本大震災を契機に農業用排水機の役割が再認識され、大きな社会的責任が求められている状況の中、経費の節減も限界にきており、本事業の予算確保に特段のお取り計らいをよろしくお願い申し上げます。



要望説明する白木会長職務代理者



農業農村整備の集い

11月25日、東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで「農業農村整備の集い」が開催された。

この集いは、全国の土地改良関係者約700名が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催されたもので、本県からは、神谷金衛会長をはじめ、本会会員、愛知県より27名が参加した。

冒頭、野中広務全国水土里ネット会長が、「政府では、“農林水産業・地域の活力創造プラン”を実行すべく、農地中間管理事業や日本型直接支払制度を積極的に展開している。土地改良関係者としてこれらの政府の動きを重く受け止め、農地・農業用水はもちろんのこと、農村地域を守り繋ぐ組織としての使命を再認識し、国が目指す方向の実現に向け、これまで培ってきた技術と経験を活用し、積極的に貢献していく所存である。」と挨拶、続いて小泉昭男農林水産副大臣、石破 茂地方創生担当大臣、出席の国会議員よりそれぞれ祝辞が述べられた。

この後、平成27年度農業農村整備事業予算に



野中全国水土里ネット会長主催者挨拶

についての情勢報告と、事例発表として秋田県大仙市の農事組合法人たねっこ、兵庫県明石市水土里ネット江井ヶ島の取り組みが紹介された。また、国に対して農業農村整備事業に十分な予算措置を講ずるよう求める緊急要請や、農業農村を取り巻く現状や課題に対する要請事項が示された。

集い終了後、採択された要請書により、本県選出関係国会議員に要請活動を実施した。

なお、当日の午前中には、神谷会長、青木専務理事、白木代表監事により、平成27年度農業農村整備事業に関する17項目の重点要請を、農村振興局長を始め農林水産省農村振興局幹部職員に対し実施した。



藤川議員に要請書を手交



室本整備部長へ要望説明

第37回 全国土地改良大会 山梨大会

富士の国やまなし発 かけがえのない農業を次世代へ 水土里育む土地改良



野中全国水土里ネット会長主催者あいさつ

- 第37回全国土地改良大会山梨大会が、10月30日、山梨県甲府市の山梨県立産業展示交流館（アイメッセ山梨）において、水土里ネット山梨、全国水土里ネットの主催及び農林水産省、山梨県等の後援により、大会テーマ「富士の国やまなし発 かけがえのない農業を次世代へ水土里育む土地改良」の下、全国の土地改良関係者約3,600名が参集し、盛大に開催された。
- 大会は、「果樹王国やまなし」の農業展開を中心、山梨の美しい農村景観などを映像で紹介した「大会オープニングビデオ上映」、「天野宣と阿羅漢」が演奏する和太鼓の圧倒的な音の強さやリズムに、会場の観るもの聞くものの心を震わせた「大会オープニングアトラクション」の後、保坂武水土里ネット山梨副会長による開会宣言にはじまり、国歌斉唱、その後、白倉政司水土里ネット山梨会長が「先人から受け継がれた水、土、里を次世代へ引き継ぐ責任がある。ここ山梨から発信したい。」と開催県挨拶、引き続き、野中広務全国水土里ネット会長が「人口が減る中、農業、農村振興は地域再生において不可欠。攻めの農業を実現するため積極的に貢献していく。」と主催者挨拶、続いて横内正明山梨県知事、棚本邦由山梨県議会議長の歓迎のことば、次に安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージと、小

泉昭男農林水産副大臣の来賓祝辞の後、大会に参加された来賓の方々が紹介された。

続いて、土地改良事業功労者表彰に移り、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰15名、全

国土地改良事業団体連

合会長表彰45名の受賞

者に表彰状と記念品が

授与された。本県から

は、農村振興局長表彰に

本会理事の山口文雄幸

田土地改良区理事長、全

国土地改良事業団体連

農村振興局長表彰受賞の
山口水土里ネット幸田理事長

合会長表彰に古江寛昭（前）立田村土地改良区理

事長が表彰の栄に浴された。

基調講演では、小林祐一農村振興局次長が、

「農業農村整備事業を巡る情勢」を行った後、東

日本大震災で被災した岩手、宮城、福島の3県の

水土里ネットの復旧・復興状況が報告、引き続

き、水土里ネット笛吹川沿岸、水土里ネット明野

茅ヶ岳から県内土地改良事業優良事例地区紹介

がなされ、大会宣言へ移った。大会宣言を務めた

専門学校山梨県立農業大学校の石原晃平さんと

窪田千春さんは「農業、農村を次世代へ引き継ぐ

ことを『富士の国やまなし』から宣言する。」と力

12ページへ続く



太陽光発電所の説明を受ける本会役員

を込めた。その後、大会旗は次回開催の青森県に引き継がれた。

最後に、田辺篤水土里ネット山梨副会長の閉会の挨拶により大会は盛会裏に幕を閉じた。

翌31日から11月1日には、視察研修会が、5コースに分かれ実施され、本会は北杜市の三分一湧水、明野地区・永井原地区、山梨市の笛吹川沿岸地区、甲州市の塩山勝沼地区などを2日にわたり視察した。



事業視察に参加した本会役員一行

農地・水・環境のつどい 開催

11月3日、安城市文化センター／マツバホールにおいて、「農地・水・環境のつどい」を主催愛知県、共催水土里ネット愛知、協賛愛知県農地水多面的機能推進協議会で開催した。つどいは愛知県における、地域共同による農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理と質的向上を図る取り組みの一層の普及を図り、県民の理解を促進するとともに、活動組織の意識向上を図るために、他の模範となる優れた活動に取り組む活動組織を表彰することを目的に第1部の優良活動表彰会と第2部の講演会と2部構成により毎年開催している。

今年度は第1部の優良活動表彰会では、山本信介愛知県農林水産部農林基盤局長の開会の挨拶



知事賞を授与する大村知事

の後、愛知県知事賞4組織の紹介と、愛知県土連会長賞の9組織の表彰と受賞組織の紹介が行われた。この後、三浦孝司県議会議長、水間史人東海農政局長(代理下舞寿郎整備部長)による来賓祝辞が述べられた。この後、公務により遅れて到着された大村秀章愛知県知事による主催者挨拶、知事賞の授与が行われ第1部を終了した。

第2部の講演会ではフリーアナウンサーの小谷あゆみ氏が「喜び！感動！農業ある暮らし～1億総プチ農家構想」と題した講演を行い、最後に、神谷金衛水土里ネット愛知会長の閉会の挨拶で農地・水・環境のつどい全てのプログラムを終了した。

受賞組織は、次のとおり。

13ページへ続く



閉会の挨拶をする神谷会長

愛知県知事賞

基礎活動部門

藤野環境保全会(安城市)

農村環境保全活動部門

農地水環境稻木(新城市)

創意工夫部門

東大塚地域資源保全会(蒲郡市)

西大塚地域資源保全会(蒲郡市)

愛知県土地改良事業団体連合会会長賞

基礎活動部門

大山水土里の会(小牧市)

甘村井地域資源保全会(愛西市)

農村環境保全活動部門

北浦鶯塚保全会(碧南市)

福地花と水土里の会(西尾市)

本町の環境を守る会(豊田市)

創意工夫部門

祖父江町保全会(稻沢市)

矢田地域保全隊(常滑市)

西中地区自然を守る会(知立市)

野場の美しい自然を育む会(幸田町)

第6回 産学官連携・愛知県農業用水小水力発電推進検討委員会

10月9日、産学官連携・愛知県農業用水小水力発電推進検討委員会が、愛知県土地改良会館において委員18名、オブザーバー19名の出席により開催された。本委員会は愛知県における農業用水を利用した小水力発電について、産学官と土地改良関係団体の協働連携により県内全域へ普及し、農村資源の有効活用と再生可能エネルギー供給システムの実現をめざすとともに、県内関連産業の振興支援を図ることを目的に設置されたもので、今回が6回目の開催となった。委員会は座長である中村直文農林水産部農林基盤局農地環境対策監から挨拶があり、出席した各委員による自己紹介の後議事に入った。

協議された議題及び内容は下記のとおり

1. 県内における取組状況について
2. 完了地区の稼働状況等について
3. 案件形成による検討状況について
4. 農業総合試験場の試験研究報告
5. 規制緩和の状況



挨拶を行う座長の中村農地環境対策監

水土総合強化推進事業情報

平成26年度

技術力向上事業技術実践研修 開催

平成26年度技術力向上事業技術実践研修会を10月20日から22日までの3日間、本会が主催で開催し、延べ79名が参加した。

本研修は、農業農村整備事業の円滑な実施を図るために、市町村職員及び水土里ネットの役職員の

14ページへ続く



青木専務理事による開講あいさつ

技術力向上を図るべく、水土総合強化推進事業の一環として実施するもので、研修会開講にあたり、青木章雄水土里ネット愛知専務理事が挨拶を述べ、続いて来賓として臨席いただいた平井 進 愛知県農林基盤局農地整備課長より挨拶をいただき、研修に入った。講師は、東海農政局、愛知県から、下記カリキュラムにあるように当該事業を直接担当されている方々をお招きし、それぞれの内容で具体的に指導いただき有意義な研修となつた。



明治用水篠目童子発電所

※カリキュラム

月日	研修科目	講 師 (敬称略)			
10月20日	農業農村整備を取り巻く最新の動向と施策	東海農政局整備部	設計課	課長補佐	榎瀬 誠
	会計検査の動向等について	東海農政局整備部	設計課	工事検査官	西川 亮治
10月21日	新たな農業・農村政策～4つの改革～	東海農政局整備部	設計課	課長補佐	榎瀬 誠
	愛知県における農地中間管理機構の取組	公益財団法人愛知県農業振興基金	農地集積推進部長	水野 英明	
	集積に関連する土地改良事業	愛知県農林水産部農林基盤局	農地整備課	主査	布目 貴秀
	多面的機能支払の現状と推進	愛知県農林水産部農林基盤局	農地計画課	主査	大橋 依子
	農地と水利施設の維持管理におけるタブレット端末の活用	水土里ネット愛知	計画部	調査課	課長
現地研修 10月22日	明治用水篠目童子発電所	水土里ネット明治用水	工務課	課長補佐	本田 巧
	経営体育成基盤整備事業 西尾市堀割地区	愛知県西三河農林水産事務所	幡豆農地整備出張所	建設課	課長補佐
	あいち臨空新エネルギー実証研究エリア(常滑市)				富田 隆広

|| 平成26年度 換地関係異議紛争処理対策検討会 ||

全国水土里ネット主催による同検討会が、11月13日、水土里ネットみえ5階会議室において開催され、農林水産省、東海農政局、岐阜県、三重

県、愛知県、水土里ネットぎふ、水土里ネットみえ、水土里ネット愛知、全国水土里ネットから26名が出席した。

(協議事項)

① 換地を取り巻く状況について	農林水産省農村振興局 土地改良企画課 企画官 前田洋次郎
② 換地関係異議紛争事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・換地処分登記申請前における公図との地区境界相違に伴う処理事例 ・換地関係異議紛争処理対策検討会で検討した紛争事例の発生端緒とその対処策の中間総括について
③ 中央換地センター報告	<ul style="list-style-type: none"> 換地技術者名簿の分析について

研修会

■ 水土里ネット事業視察研修会 開催

10月7日～8日にかけて、農業農村整備事業の推進を図るため、7日には、滋賀県彦根市において、「愛西土地改良区の運営及び環境保全の取り組み」を、8日には京都府京都市 洛西土地改良区が管理する「一ノ井堰」において、「一ノ井堰における運営及び施設の維持管理体制等」の事業視察研修会を開催した。

研修会には、63名が参加し、1日目は、滋賀県彦根市にて、^{あいせい}愛西土地改良区の西川理事長の挨拶後、田附事務局長より詳細な土地改良区の概要等の説明を受けた。2日目の京都府京都市の「一ノ井堰」では、洛西土地改良区の中村理事長の挨拶後、山本事務局長より現地にて維持管理体制等の説明を受ける中、本研修会のために現地に赴かれ



野中会長の歓迎あいさつ

た野中広務水土里ネット京都会長(全国水土里ネット会長)からも歓迎の言葉とともに、「私たち水土里ネット関係者は地域農業の発展と地域の活性化のために、中核的な存在としてしっかりと活動していく必要がある。」との挨拶を頂いた。

参加された方々は、それぞれの立場から熱心に視察され、地域での農業農村整備事業の推進の参考にしていただいた。研修会終了後のアンケートには、ほとんどの方から「大変有意義な研修会であった。」とのご意見をいただき大変充実した研修会となった。

なお、上記のほかにも滋賀県草津市の「滋賀県立琵琶湖博物館」、京都市歴史的建造物である「琵琶湖疏水『疏水閣』」の事業視察も併せて行った。



愛西土地改良区概要説明

■ 農業用排水機県営移管期成同盟会視察研修会 開催

9月29日～30日にかけて、ポンプ駆動用の空冷ディーゼルエンジンメーカーである三井造船マシナリー・サービス(株)東京事業所(東京都昭島市)、同社製エンジンが設置されている県営湛水防除事業榛原第2排水機場(静岡県牧之原市 坂口谷川南部地区)の視察研修会を開催した。

研修会には同盟会役員・会員等59名が参加、研修1日目の三井造船マシナリーでは、同社東京事



空冷式ディーゼルエンジン

業所の宇治田企画管理部長による概要説明の後、同社職員の案内・説明により工場内を見学した。

また2日目は、榛原第2排水機場にて、牧之原市役所農政課の大石基盤整備係長より排水機場の概要、最近の運転状況等の説明を受けた。

参加された方々は、2日間にわたり熱心に視察され、地域における今後の農業用排水機の維持管理等の参考となる研修となった。



榛原第2排水機場

排水機管理担当者現地視察研修会を12月2日、滋賀県東近江市の大中之湖土地改良区が管理する「新排水機場」、滋賀県守山市の「ダイハツディーゼル(株)守山第1工場」において開催した。

この研修会は、管理担当者の管理技術の向上及び管理意識の高揚を図るために開催したもので、参加者は、市町村・水土里ネット等の職員や運転管理者57名。



新排水機場

適正化事業加入団体现地研修会を12月9日、三重県多気郡多気町の津田土地改良区が管理するハ王子頭首工、水土里ネット立梅用水の立梅用水型小水力発電設備等において開催した。

この研修会は、土地改良施設の適切な維持管理と適正化事業の円滑な推進を図ることを目的に毎年実施しているもので、参加者は、市町村・水土里ネットの職員45名。



立梅用水型小水力発電設備

なお、平成26年9月17日、水土里ネット立梅用水が管理する立梅井堰が歴史的農業水利施設として、世界95カ国が加盟する国際かんがい排水委員会(ICID)の世界「かんがい施設遺産」に登録された。

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014

～入賞・入選作品決定 本県応募作品のうち8作品が入選～

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014に、全国から8,359点、本県からは1,430点（うち団体応募7団体で1,210点）の応募があった。

この絵画展は、子どもたちに田んぼや農村に関心をもってもらい、田んぼ、水路やため池による水の循環や環境保全への理解をうながし、大人たちへのメッセージとして子どもたちのまなざしを届けることを目的として平成12年度から全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催している。有識者による厳正な審査の結果、入賞作品22点、入選作品94点、団体賞作品52点が決定した。本県からは、入

選8点、及び団体賞12点が選ばれた。

なお、団体賞は、水土里ネット愛知用水、水土里ネット明治用水、水土里ネット油ヶ渕悪水、水土里ネット豊田、水土里ネット豊川総合用水、茶屋新田地域資源保全隊が団体応募に参画し、愛知用水土地改良区理事長賞1点、水土里ネット明治用水理事長賞等3点、油ヶ渕悪水土地改良区理事長賞1点、水土里ネット豊田理事長賞等3点、水土里ネット豊川総合用水理事長賞等3点、茶屋新田地域資源保全隊賞1点を選考していただいた。



「大きくてあまいいちごがなったよ」
三浦 柚咲 布土保育園 年中



「たんぼのよこのイチゴばたけでいちごがり」
新美 優月 美浜町立野間小 1年



「ほんおどり」
野村 夏音 知立市立来迎寺小 1年



「お茶つみ」
加藤 琉尉 安城市立明和小 2年



「昔ながらの田植え」
久野 陽生 大府市立大府小 2年



「ぼくの家から見える風景」
榎原 僚太 刈谷市立平成小 3年



「ふるさとの田んぼ」
川原 匠貴 刈谷市立小垣江小 4年



「田んぼと、農家をしてる人」
野村 春菜 安城市立梨の里小 4年

第13回 あいちの農業・農村フォトコンテスト

～大賞・優秀賞・入選作品決定～

本会主催、愛知県後援の「第13回あいちの農業・農村フォトコンテスト」の審査会を12月11日、愛知県土地改良会館7階大会議で開催した。県内各地から、今回のテーマ「土地改良施設と人・生き物」を表現した作品287点(139人)の応募があった。審査は、審査会規程第2条により実施され、8名の審査員による厳正な審査の結果、水土里のフォト大賞1点、優秀賞2点、豊かな農地あいち特別賞1点、農地・水・環境向上活動特別賞3点、入選10点の計17点が選考された。

なお、入賞・入選作品の展示を下記により実施しますのでお立ち寄りください。

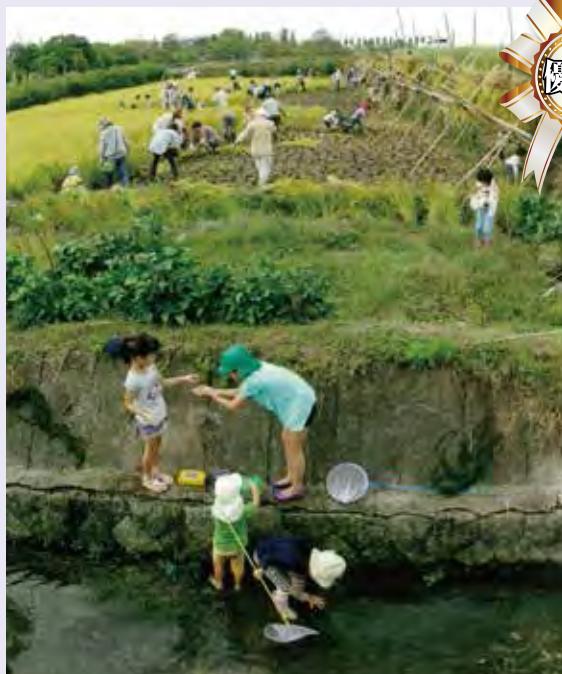


審査会



★水土里のフォト大賞 「散 水」(田原市)

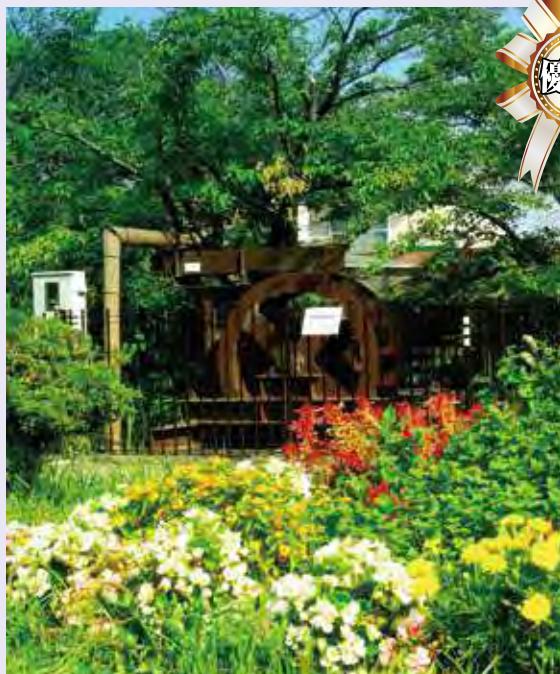
撮影者:鈴木 順喜氏の作品は、表紙に掲載してあります。



水土里のフォト優秀賞

「収穫日和」(安城市)

撮影者:浅岡 由次



水土里のフォト優秀賞

「明治用水 篠目童子発電所」(安城市)

撮影者:加藤 将文

【展示場所および期間】

展示場所	展示期間(予定)	展示場所	展示期間(予定)
県庁本庁舎・西庁舎の地下連絡通路	平成27年2月2日(月)AM ～平成27年2月13日(金)PM	東三河県民生活プラザ (東三河総合庁舎1階)豊橋市八町通5-4	平成27年3月2日(月)AM ～平成27年3月13日(金)PM
海部県民生活プラザ (海部総合庁舎1階)津島市西柳原町1-14	平成27年2月16日(月)AM ～平成27年2月27日(金)PM	西三河県民生活プラザ (西三河総合庁舎1階)岡崎市明大寺本町1-4	平成27年3月16日(月)AM ～平成27年3月27日(金)PM



○平成26年度水土里ネット役職員研修会開催

日 時 平成27年1月22日(木)10時30分～

場 所 愛知県土地改良会館 7階大会議室

研修内容

(敬称略)

1 土地改良区(水土里ネット)における個人情報の保護	講 師:東海農政局 農村計画部 土地改良管理課長補佐 中村 博文
2 土地改良区(水土里ネット)の役割	講 師:東海農政局 農村計画部 土地改良管理課長 杉原 一朗
3 農林水産業における女性の活躍推進に向けて	講 師:東海農政局 経営・事業支援部 経営支援課課長補佐(就農促進) 伊東 誉維
4 経営所得安定対策等の概要	講 師:東海農政局 経営・事業支援部 担い手育成課課長補佐 山根 浩一
5 心と体の健康	講 師:さわやか労働衛生コンサルタント事務所 代表取締役(医師) 産業医 津田 純司

※参加申込等の詳細については、12月19日付で通知しました内容をご確認ください。

○農業基盤整備資金の金利のご案内

平成26年12月18日現在の日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の貸付金利は次のとおりです。

金利は金融情勢により変動します。

最新の金利は名古屋支店農林水産業農業食品第二課(TEL052-582-0745)にお問い合わせください。

区 分	借入期間に かかわらず	利率一覧(平成26年12月18日現在)			
		融資期間別(一例)			
		5年	10年	15年	20年
県営補助残	0.95%	—	—	—	—
団体営補助残	0.80%	—	—	—	
非補助	0.80%				
災害復旧	—	0.30%	0.35%	0.65%	0.80%

○2015年 農林業センサスが実施されます

農林水産省所管の統計調査「2015年農林業センサス」が平成27年2月1日現在で実施されます。

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う大変重要な調査です。

本県では、今回のセンサスにおける「農林業

経営体調査」について、市町村を通じて、平成26年12月中旬ころから農林業を営んでいる皆さんのところに、統計調査員が訪問し、調査票に農林業の経営状況などの記入をお願いしているところです。

調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

問合せ先

愛知県県民生活部統計課

TEL052-954-6102 FAX052-961-2194

または、各市町村農林業センサス担当者へ

迎春

本年もよろしくお願ひいたします
平成二十七年 元旦

会長	神谷	衛	明治用水土地改良区理事長
専務理事	木瀬	雄保	学識経験者
理事	野清	一夫	北名古屋市長
〃	市谷	彦彦	西福田土地改良区理事長
〃	恒川	宣治	一宮市長
〃	中野	一丸	宮田用水土地改良区理事長
〃	浜田	廣美	海部土地改良区理事長
〃	澤田	徳四郎	学識経験者
〃	澤山	三雄	学識経験者
〃	口上	文万	愛知用水土地改良区理事長
〃	原川	廣文	幸田土地改良区理事長
〃	柳川	田口	矢作川南部土地改良区理事長
〃	三久	康孝	西尾市長
代表監事	小久	知三	豊田土地改良区理事長
監事	横山	光実	みよし土地改良区理事長
〃	横白	健夫	豊川総合用水土地改良区理事長
〃	早森	健吉	設楽町長
監事	木川下	直	鍋田土地改良区理事長
〃			油ヶ瀬悪水土地改良区理事長
			田原市土地改良区理事長

(副会長は欠員)

事務局長	鈴木	敏生	施設	和泰倫
事務局次長(兼)整備部長	藤野	博樹	管理課長	浩仁彦
総務部長(兼)企画広報課長	坂内	紀典	課長	一信守
計画部長	井坪	忠三	名古屋支会事務長	和經
総務部次長(兼)総務課長	鹿島	邦忍	一宮支会事務長	和啓
整備部次長(兼)整備課長	上村	誠彦	海部支会事務長	和
計画課長	佐佐木	利	半岡支会事務長	泰倫
調査課長	宇佐木		幡豆支会事務長	浩仁
水土里センター室長	本樋		豊田支会事務長	一信
指導監督	多口		橋豊支会事務長	守
技術監			会長	泰倫

外職員一同

